

毎月25日は「ふくい²エコ⁵農業の日」です。

県民のみなさんに、「環境にやさしい農業」のことを、もっともっと知っていただくために、「ふくいのエコ農業」を毎月25日に発行します。

赤やピンクの花が満開でした

県内各地で、お米を作る前に、クリムソクローバー（赤い花）やレンゲ（ピンクの花）を作って、化学肥料を使わない栽培が行われています。



↑クリムソクローバーを田んぼの肥やしにしています

↓満開のレンゲ



クローバーもレンゲも同じマメ科の植物で、肥料をまかなくても空気中の窒素をとりこんで生長します。マメ科の植物は分解が早いため、大きくなったクローバーやレンゲを田んぼの土と混ぜることで、その後に作るお米にとって、とてもよい肥料となります。

永平寺町では化学肥料だけでなく、農薬も全く使わずに、お米を作って、「レンゲ米」というブランドで販売しています。



エコ農業に取り組んでいる農家を紹介します

今回は、敦賀市木崎で特別栽培農産物を作っている
重武 幹雄 さんのビニールハウスへお邪魔してきました。



重武さんは10年ほど前から本格的に農業を始め、約8年前に特別栽培農産物を作り始めました。

ビニールハウス1棟から始めた重武さんが、特別栽培に取り組むきっかけは、一緒に農作業を行っている奥さんの体調を考えてのことでした。少しでも農薬の散布を減らして奥さんの負担をも減らしたいという思いから、農薬と化学肥料を5割以上削減する特別栽培農産物を作り始めました。

お客さんから「重武さんの野菜は安心」「美味しい」などの声が届くので、続けることができると話されていました。



↑キュウリの様子を見る 重武 さん

今では、ビニールハウス5棟で、キュウリ、トマト、ニンジン、ネギ、ナス、ピーマンなど、農薬と化学肥料を5割以上削減してたくさんの野菜を作っています。



福井県産米エコファーマー化運動実施中
環境にやさしいふくいのエコ農業



福井県産米エコファーマー化運動実施中
環境にやさしいふくいのエコ農業



↓出荷を控えたハウス内のニンジンとキュウリ



しかし、特別栽培は普通の栽培方法よりも、病気にかかりやすく、害虫にも弱くなるため、他の野菜よりも特に気を使っているそうです。

例えば、害虫が引き寄せられる罠をしかけたり、万が一、病気にかかった場合には、病気にかかった葉っぱを素早く取り除いてビニールハウスの外に

捨てるなど、野菜の顔色を見ながら、農薬の使用回数を少しでも抑える工夫をしています。

去年は通常栽培の野菜も含めて、約100種類もの野菜を直売所に出荷されました。

また、今年は、仲間と一緒に近くの小学校の給食に野菜を提供して、敦賀市の子供たちに安全・安心で美味しい野菜を食べてもらうことにも取り組まれています。



↑元気いっぱいのメロンの苗

敦賀市には、「ふるさと夢市場」（敦賀市砂流 24-45）と「旬・ときめき広場」（敦賀市三島 2-11-11）の2か所に直売所があります。

どちらも重武さんの特別栽培農産物が並んでいますので、是非、お買い求めください。



↑ふるさと夢市場（9:30～16:00 土曜定休）



↑旬・ときめき広場
（9:00～18:00 水曜定休）



福井県産米エコファーマー化運動実施中
環境にやさしいふくいのエコ農業



福井県産米エコファーマー化運動実施中
環境にやさしいふくいのエコ農業



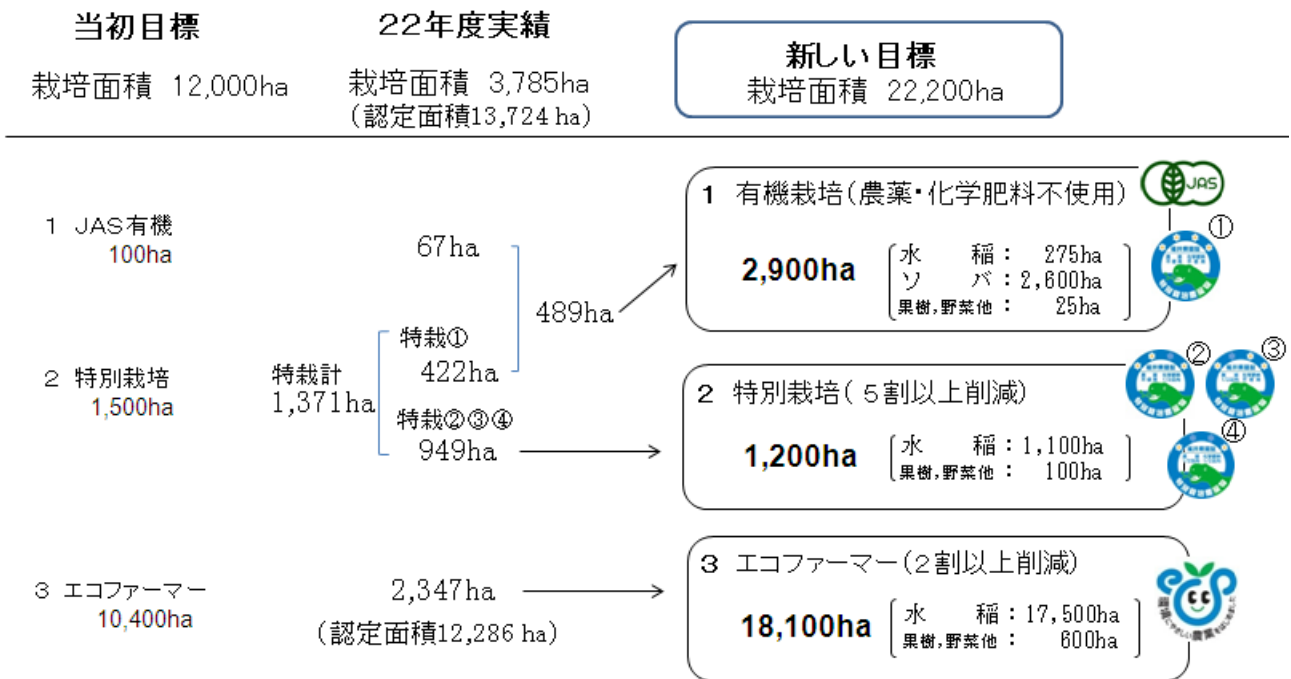
ふくいのエコ農業の目標を変更しました

県では、平成21年3月に「ふくいのエコ農業推進計画」を策定しました。

平成25年度の目標として、エコ農産物の栽培面積12,000haを掲げていましたが、平成22年度に米農家を中心に多くの農家が認定され、平成25年度には当初目標を大幅に上回ることが見込まれるため、平成23年4月20日に「ふくいのエコ農業推進協議会」を開催し、目標の見直しを行った結果、新しい目標値を設定することとしました。



ふくいのエコ農業推進計画の目標修正



県では、これからもエコ農業の生産拡大を推進していきますので、店頭でエコ農産物を見かけた際には、是非お買い求めください。

